



美（宮子という女の子の物語）

菓子名『宮子』

西暦700年頃、御坊市吉田八幡山周辺の小さな漁村で生まれた宮子という女の子には大きくなっても髪が生えませんでした。宮の母親が海底に沈む小さな観音様を見つけ「娘の髪の毛が生えますように」と願をかけると不思議な事に黒髪が日に日に長くなってきました。その髪の毛をつばめがくわえ、奈良の都へ飛んでいき、藤原不比等の屋敷に巣を作りました。巣から垂れ下がる長い髪を見つけた不比等が宮を探し出し養女に迎え「宮子」と呼ばれるようになりました。やがて宮子は文武天皇の妃となり、聖武天皇の生母となりました。このお菓子は宮子の美しさを表した艶やかな乳菓で作りました。このお菓子をお召し上がり頂くことで美しくなり、願いが叶うようにと想いを込めています。



幸栄堂